

みんなで守る郷土の自然地域 常磐のカシ林&遊歩道

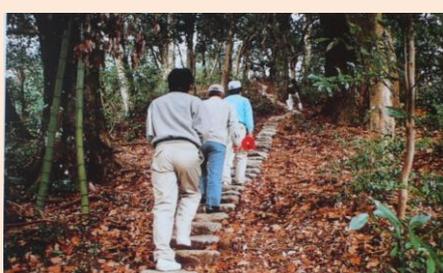
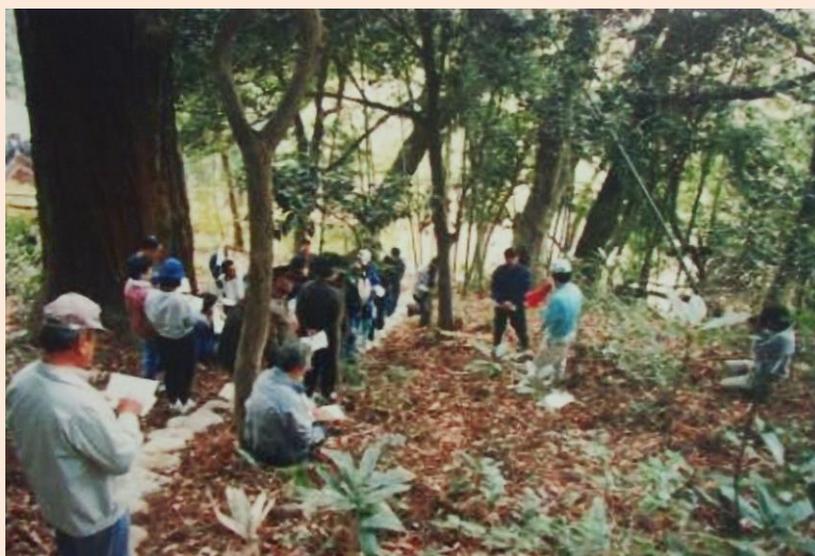
波佐・常磐山八幡宮の社殿裏山のウラジオガシの巨木33株、杉の巨木3株、ヤブツバキ100株、ヤマフジ2株やシロダモ、ユズリハの低木、チャボガヤ、ハイヌガヤの常緑針葉低木がみられ、日本海側の典型的なカシ林の特徴を持ち、西限植生として重要なものです。

この「カシ林」は、平成2年に「みんなで守る郷土の自然」に選定され、波佐文化協会が自然地域の保安全管理を行い、平成4年には、カシ林の中を自然観察が出来るように石畳による散策路や標識を設置して自然観察会を開きました。

八幡宮の創設は、文治元年(1185)に佐々木高綱によって建立され、戦国期には尼子経久によって再建立された由緒ある神社です。境内の大杉2株を含め「常磐の大杉」5株は、島根県指定天然記念物で、その中でも樹齢1千年と称される1株は、日本老樹銘木、島根県巨樹130選にも選定されています。

神楽殿には、16面の大絵馬が掲示されており、一見の価値があります。鳥居の北側にある八卦占いの出来る「手水鉢」は、江戸末期の享和年間に亀谷家の田中見俊が奉納したものである。また、境内には、チベット探検家能海寛が中国で詠んだ故郷の八幡宮に関する歌を歌碑に刻んだものが2基設置されている。

(管理団体 : 波佐文化協会/浜田市金城町波佐)

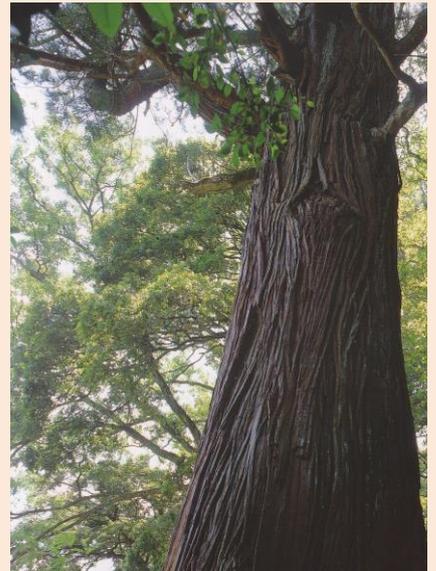


波佐のパワースポット

常磐の大杉

千年の歴史を刻む常磐の大杉（アシオスギ）は、平安時代以降の黒金（たたら鉄）の攻防を巡る幾多の戦火を経て、今日まで営々と歴史を刻んできた。秋には、紅葉し、春には、新緑となる。千年杉の長寿パワーに触れてみましょう！

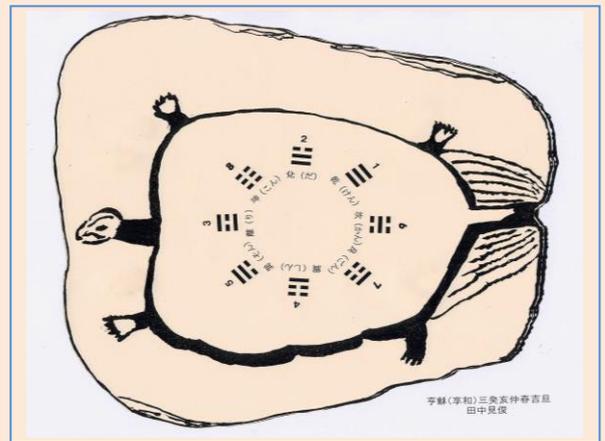
2番目に大きい大杉との間から真北方向に的場があり、天然のアヅチ（的）が現存している。大杉の周りには「矢竹」が群生している。



手水鉢で「八卦占い」

常磐山八幡宮の手水鉢「易八卦占い」は、享和3年（1803年）亀谷家・田中見俊氏が寄贈したもので、江戸時代から明治時代まで、この手水鉢を用いて一文銭で八卦を占っていた。亀の甲羅部分が水瓶となり、尻尾の部分から水が流れ落ちるようになっている。中央部に8個の符号が刻まれ1～8までの符号が施され、頭が3、尻尾が6、右手が8、左手が5、腹右2、腹左が4、右足1、左足7と乱れ配置となっている。

八卦を占うには、1円玉を中央から水の中に落とし、近い場所の符号が貴方の運勢となります。



- ☰ 一 乾（けん）大吉・円満健全
- ☲ 三 離（り）中吉・明智光麗
- ☴ 五 巽（そん）小吉・伏話教益
- ☱ 七 艮（ごん）中吉・静高尚保

- ☵ 二 兌（だ）小凶・脱和親密
- ☳ 四 震（しん）中吉・勉強成功
- ☶ 六 坎（かん）凶・憂沈伏寂
- ☷ 八 坤（こん）小凶・順静謙讓

